

ナギタキノ沢右俣

L六

一九八一年八月三〇日

一一一・四の三角点峰から尾根

ぞいに踏跡をたどって、一〇時下降開始。こちらはまったく平凡。トン

ネルのすぐ上にあつた六の滝以外特記することもない。尾根一本隔て

ただけで、こうも違うものかと思つばかりである。

トンネルに出た所で下降終了とす

(記・宍戸幸務)

「タイム」 下降点(一〇:〇〇) ↓ 粟子隧道(一〇:五〇)

杭甲沢(仮称)

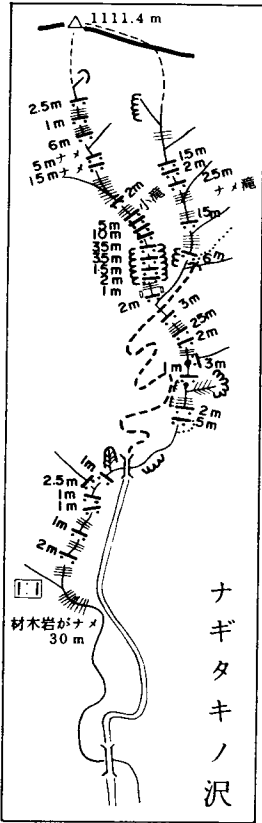
L一

一九八五年九月二二日

粟子トンネル手前に車を置き、旧

国道(廃道)を滑谷沢出合まで歩く。

ナギタキノ沢



ナギタキノ沢右俣

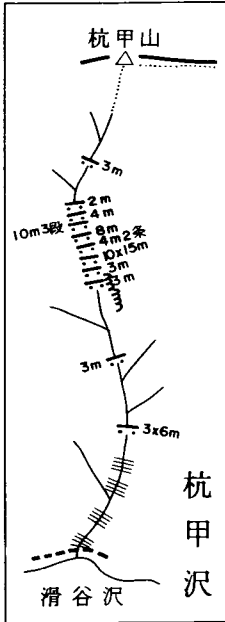
滑谷沢を少し下って杭甲沢出合へ。出合はヤブがかなり、ともすれば見逃しやすい。あとでわかったことだが、旧国道からここまで踏跡がある。九時三五分、遡行開始。出合のヤブはすぐになくなり、沢らしい形態となり、ナメが断続的に出てくる。やがてF1。三×六のナメ滝で、軽くパス。

F2三びもなんなく越えると、二俣となる。水量の多い右俣に入る。

沢が左に曲がる所にF3三びがかかり、そこより核心部となる。八個の滝が続くが、いずれも直登でき、なかなか良い遊行となる。

左より小沢が入り、F10三びを過ぎると、水も少なくなる。やがて沢はルンゼ状となって水も濁れる。ルンゼを登りつめ、杭甲山頂上に突き上げた。

〔タイム〕 杭甲沢出合(九:三五)↓
遊行終了(一〇:三〇)↓杭甲山
(一〇:五〇)



小滝を越すと、今度はミニゴルジュ。しかし、通過に困難はない。やがて、五び前後の小滝が連続するよ

三本松沢左俣

上

一九八五年九月二二日

杭甲山山頂より北側のコルに向けてヤブをこぐ。ここにはかすかな跡が残されているが、ほとんどヤブにうめつくされようとしている。

コルより下降開始。すぐ沢に出て、八×一二びのナメ滝。これを降りると、すぐ左岸から四び滝をかけて小沢が合流する。ここで昼食をとり、再び下降再開。

うになるが、いずれの滝もクライミングダウンにて下降可能。そのあとすぐ中俣を合わせ、沢は平凡となる。

このまま終わるのかと思ったら、右俣を合わせたあとにきれいなナメが出てきた。滑谷沢との出合まで続く。最後は気分よくしめくくることできた。

〔タイム〕 杭甲山(一一:〇〇)↓コル(一一:一五)↓中俣出合(一二:〇〇)↓滑谷沢出合(一二:三〇)